

第2回上田市総合教育会議(平成27年8月3日)議事録

1 開会

2 母袋市長あいさつ

お疲れ様でございます。第2回上田市総合教育会議ということで開催の運びとなりました。第1回目につきましては、ご案内のとおり様々、皆さんからも御意見をフリーに出して頂けたことの中で、今後焦点をどこに絞って議論し、総合教育会議の中で成果を挙げていくかということになっていくわけございまして、それはそれの中でございますが、教育委員会においても様々な議論を新教育長のもとされてこられたということもお聞きしており、今日その様な内容についてお聞きする場でもあると思っております。

大綱の構成も、なから決まってきたような感もありますので、また御議論を頂きながら形にしていきたいなと思っておりますのでよろしくどうぞお願いいたします。

3 小林教育長あいさつ

古い話ではありますが、20年ぐらい前に臨時教育審議会というものがございまして、その答申の中で相互理解を妨げる壁というものがあるというような、教育について特に学校教育について言われた時期もございまして。その言葉自身が非常にショッキングな言葉であったんですが、ややもすると閉鎖的な体質というものがあったんですが、かなり改善されてきたと教育については考えています。その意味でスローガンとしても開かれた学校づくりから、今は一歩進んで、例えば共に歩む学校づくりというような形にしていかなければいけない、そんな時期に来ているかなそんな事を考えています。信州型コミュニティにしてもそんな意味で進めてまいらなければいけない、こんなふうに思っているところでございます。

この第2回目の総合教育会議につきましても、今まで以上に関係を密にして教育行政を進めるための重要な機会、こういうふうに考えているところでございます。教育委員会として喫緊の課題につきましてもこの場で申し上げる機会も持ちながらスピード感を上げてまいりたい、こんなふうに考えていますのでよろしくお願いいたします。

4 会議事項

(1) 上田市教育大綱の構成について

事務局から資料1説明

小林教育長

見させていただいて、うまくまとめていただいたなという感じを持っています。総合計画の中で人づくりというものにポイントをあてると、その全体の中からちょうど3Dの画像のように教育分野が浮き上がってくるというような形で構成されるという、その構成というものを見事に作っていただいて教育委員会としては非常にありがたいなと感じているわけではありますが、た

だスローガンとかそういうものにつきましては、例えばどういう人づくりといったときに、例えばまちづくりビジョンにある「輝く未来」というイメージでありますとか、それから教育の基本目標の一番最初にあります「無限の可能性」といったものが、何か自分を大切にということにうまく掛かってくれるとありがたいなという気持ちは持ってるんですけど、全体として、私としては全体の事だけ申し上げますと、非常にうまく作っていただいたなど、この様な感じを持っています。

城下教育委員

大綱をつくるんだと思ったときに、どうやっていいんだらうって私の頭の中で考えたとき到底いい案は出てきませんでした。でも部局の方におまかせということだったので、出していただいたのを拝見させて頂いて、私なりにというところをいろいろとお話させて頂ければいいのかなと思って、この素案が出てくるのを楽しみというか、どんなのが出来上がってくるのかなと楽しみでありました。

今、教育長がおっしゃられたように構成はすばらしく作っていただきまして、またこの構成の体系的なイメージは、また市民の皆さんにオープンにするときは、もうちょっと一目瞭然の体系イメージがあるといいのかななんて、どうしても文言で突っ込んじゃうと市民の方がパッと見たときに、私ぐらいですかね、読む気をなくしてしまうのは、きっと皆さんそんなに読む事に抵抗ない方はあれかもしれませんが、体系的なイメージは一目瞭然、知覚的に目に飛び込んでくる形で最後仕上げていただければいいのかなというのは感じました。

あと、このスローガンですか、「自分を大切に人を大切に」、ここにつきましては私個人の考えと致しましては、もう少し教育の大綱っていうところでもうちょっとなんていうのかな、私の体育会系のストレートな性格から致しますと、もう少し強くてもいいのかなという感じはしました。これからの時代ですもん何が起きてもおかしくない時代です。今まではみんな一緒に横並びでいいですよって言ってたのが、そうじゃない、一人ひとりそれぞれ個性を大事にというような時代に子どもだけじゃないですけど市民のみなさんも置かれて、対応力というのがすごく求められるんじゃないかなと思うんですね。なので、こういった大変な時代でもたくましく上田の未来を持って進んでいくという力を身につけて頂きたいし、行政としてもそれをバックアップするという形だったときに、前置きが長くなりましたけど、私のないこの頭の中でここ二日、三日何がいいのだろうかと考えた時に、施策の中にたくましくという文言もありますけれど、ちょっと恥ずかしながら私が考えたスローガンをお話します。「心豊かにたくましく 未来をひらく 上田の人づくり」、こんなの私の精一杯の考えですけど、こんなキャッチフレーズどうかななんて、「未来をひらく」のひらくは開拓の拓という字を入れて、こんな感じの施策の中にも文言はたくましいとか、心豊かにとか、未来を拓くとかありますけど、あえてまたここで最初の大綱の最初のキャッチフレーズとして出すのも分かりやすくして良いかななんて感じは持って今日はここにまいりました。

寺島教育委員

教育大綱ということで、総合計画があって、上田市の教育支援プランがあって、3つ目になるわけですけど、屋上屋を重ねたようなものになっては困るかなと思っていたんですけど、今の素案を拝見して「人づくり」という本来の原点ですね。そこに視点を絞り込んだという形で、非常に構成はうまくできあがってきたなと思います。ということでは、ある分では重複するんですけども、視点が違いますので、総合計画と教育支援プランとは、また別といえます

か、こういう形での「ひとづくり」という大綱がうまくまとめれば結構だと思います。

それからちょっと確認ですけれども、これらの教育大綱の構成(案)の中に、現在の教育委員会の所管業務について記されているわけですが、例えば将来ですね、組織の見直しがあって、教育委員会の中から、例えば長野や松本のように文化とかスポーツというのが市長部局に移ったときに、要するに他の所管になった場合にも、ここは残るのかという事を確認しておきたい。仮に残って総合教育会議の中での議論の対象になってくるといふうになれば、現在ここに、他の所管部の方も出席しないと、この推進について、齟齬が生じるんじゃないかと思しますので、そういうことも含めて全体の位置づけはどうなるのかなということを伺いたいのですが。

金子政策企画部長

現在でも例えば文化芸術の部門につきましては、市長部局でありますサントミュージゼ、これは政策企画部にありますので、ここが担当しておりますので、これについては、教育委員会だけで担っていくということではございませんので、今後、もし組織体制、教育委員会のあり方という議論もこの場でしていくようになるかと思しますので、そうした場合には、違う部局になっても大綱の中に位置づけて、別の部署になっても一緒になって人づくりをしていくことを考えていきたいと思っておりますので、そういう状況になったら、別の担当もここへ来て出席するということになると思えます。

山崎教育委員

明確になった目標というか、これについて目指していきましょうということが明確になって、総合計画ではまちづくりをしましょう、教育に関しては上田市の人づくりをしましょうというところが、特化されたというか分かりやすくなって、説明を受けて良かったなと感じました。

その中で内容ですが、どなたが見ても分かりやすいのが一番だと思います。基本理念を最初に送られたときに正直じっくり来なかったという部分もありました。その中で私が一番感じたのは「大好き」という言葉がどこかに入らないかなと思いました。自分も好きだし、自分の周りにいる人たちも好き、だからこのまちが好きというような非常に明快なところが分かって、そうすると自分も大切にできて、周りの人も大切にできるし、自分たちが住んでいる上田を大切にしていける、一番最初の好きという気持ちを、どこかで取り上げてくれたら嬉しいかなと思いました。個人的なことですけど、家族に「あなたは上田のことが好き」と聞いたら、娘と主人ですが二人とも好きと言いました。「なんで？」と聞いたらちょっと首をかしげたんだけど、やっぱり自分が生まれたところだし、自分が今ここに住んでいるからという、単純明快な答えが返ってきたので、それって大事な事かなと思いましたので、そんな事が基本理念の中に気持ちとしては入れていただければありがたいなと思いました。

人づくりの目標、3項目あってそこにもいろんな文言が入りますが、学校教育という部分で「人の痛みがわかる思いやりの心～」という部分ですが、ここは相手の立場を想像できるとか相手の立場に立てるといふ、そして自分とは違う思いを感じ取るというような言葉があってもいいかなと思いました。「自分の考えや気持ちを伝える表現～」とありますが、それにプラスして相手の考えや気持ちを聞ける、聞く力というような、自分も伝えるし発信もできるし受信もできるよというようなことが、言葉として入れればいいかなと思いました。

生涯学習のところですが、一番下の人と人のつながりというところに、人と人の温かなつながりなんて入れればいいかなと思いました。「目的や生きがいをもって～」というところですが、

生きがいや張り合いってとても大事なかなと感じているので、目的でも良いのですが、気持ちの張り合いとかが入れればいいかなと思いました。文化芸術に関しては、一番上の「地域への愛着や誇り～」、よく聞く言葉があるんですけど、地域への愛着ではなくて、地域への愛情というのはどうかなと考えました。二番目の、「子どもたちの豊かな発想、感受性～」というところは、子どもたちの柔らかな発想、豊かな感受性～というふうに考えてきました。

北沢教育委員

結論から申しますと大綱の方向や内容については賛成であります。教育は人なりと言われていきますので、人づくりであり、言葉を変えれば、人材の育成であり、そのことがまちづくりにつながり、もっと具体的に言えば上田市の魅力や上田市としての力に繋がっていくんじゃないかなと思っていますので良いかなと思っています。

今後のことですけど、例えば図式化なりモデル化してというふうに思います。その中で、基本理念がピンクの枠組みのラインボックスの中に「自分を大切に～」とあるんですけど、私はこのところを是非、上田市らしいものにしていただければありがたいなと思っています。

上田市らしいというのは、ふるさと上田というのを入れるのが上田市らしいとなるか、あるいはそういう言葉を入れなくても上田市を連想する、そういうものが文言として出てくるとすばらしいなというふうに思っています。内容的にはそれぞれ3つの項目を精査していただければと思うんですけど、そのときによく言葉の定義をきちんとしていただきたいなと思うんですけど、色んな言葉が使われていますけど、例えば都市づくりとまちづくり、目的があって使われていると思いますけど、例えば地域と故郷、どういうふうに使い分けていくか、例えば人という字も漢字であったりひらがなであったり当然意図は分かりますけど、是非そういうところまで含めて今後文章を作成して、更に分かりやすいものにしていただければと思います。

母袋市長

マクロ的というか大きな意味合いで、まず総合計画の中の位置付けが4編、5編、6編の中で位置付けられるということは必然のことだと思い、かつ今までは5編、6編の一部までしか教育マターと言ってこれなかったのですが、4編のここに書いてある放課後児童対策含め、6編の更に右へいった文化芸術を乗り越えての高等教育機関との連携、これが今回のかなりの目玉の部分も含めてなっていくんじゃないかなと思っています。

したがって、こういった幅広い視点に立って位置付けをしていくという、これがまず大切であり、それがなされてきたと考えます。右側の方ですけど、いつも考えるんですけど、例えば教育のテーマという時に意味合いはいろいろあって、一つが基本理念にとってみても普遍的な人、教育という視点での表現力の部分と、地域にとってみてまさに個性とか特徴、それを出したテーマにするかとか、ここが分かるところだと思う、主観的な要素も加えて。上田市は私の前から訴えていることは、一つはものづくりであり、一つは人づくり、この二つが大きな意味合いを持ったまちなんです。これが一つの個性にもなっているということだと思いますので、今回人づくりということにスポットをあてたということ、これは上田の一つの特徴になるのかなと感じております。

あと、さっき平仮名、漢字の話もでしたが、人は二本足で立つのですから漢字のほうがしっくりいくのかな、平仮名は柔らかさはあるけれども、私は漢字でいいのかなと感じはします。今後ですけど、今回文字づらで示されましたが、どこに織り込むかはいろんな所に冊子で出てくる、あるいは大綱に織り込むそういった際も絵で見て、絵づらの物で子どもたちが

見ても感じられるような表現、それを工夫してもらいたい。これは総合計画の全体の問題かもしれないけど、見てイメージが湧くような、なかなか文字というのは難しいですね。文字を感じてどうイメージするかは、個々の主観的要素が入ってくるので、絵的な話とかという展開になってくると上田の例えば未来のこれからの教育、学校教育、生涯学習、スポーツ、文化芸術、こんなようなイメージになっていくんだなという、そういう意味でのイメージづけをしてもらえればいいのかなと思っています。

少なくとも今回は冒頭に言った普遍的なテーマと特徴を出すという個別のテーマということになると、一定期間の総合計画の中での位置付けですから、5年なり 10 年なりで限定のテーマとして絞り込んで強調したほうがいい面もあるという思いも持っていますので、それがイコール上田市の個性とか特徴に結びついた表現になっていけばいいものになっていくのかな、そんな思いを持ちました。

寺島教育委員

構成についてですけど、どちらかという理念で書かれていますよね。このままいくのか、個人の意見としては、いわゆるぶらさがる施策は総合計画の中にもありますし、教育支援プランにもあるので、教育大綱としてはこういう理念的でもシンプルな形がいいのかなと思います。ここにまたいっぱい下に図を書いたりしてしまうと同じことになるので、こういう出し方もあるのかなと思いますけれども、こういう形に示されていますので、こういうような理念的なことを箇条書きで書いた形での大綱なのか、そうでなくて、これをベースにして変形してまとめていく形なのか伺いたいと思います。

金子政策企画部長

前回の会議で確認されたとおり、いろんな個別計画、総合計画ありますが、これを棲み分けしてわかりやすくシンプルな形にするというご意見を頂戴しておりますので、大綱は理念部分を示して、個の政策については総合計画、あるいは個別計画ではっきり示しておりますので、そちらでやっていただきたいと考えております。

寺島教育委員

はいわかりました。結構です。

金子政策企画部長

皆さんに御意見賜ったんですけど、今回素案としてお示しをした、この人づくりということに視点を置いて、キャッチフレーズ、この部分については例えばの事例を示したものにすぎませんので、これを事務局としてよく練って、それと各分野の目標部分についても、もう少し文章練って次回にお示しするということと、できればさっき市長が申し上げた絵で、北沢委員もおっしゃるように一目でわかるような形でお示しできればと考えておりますので、こんな構成の基にこれから進めさせていただきたいと思っていますけども、よろしいですかね。

人づくりに視点を当てた大綱ということで、それとキャッチフレーズ作って目標を掲げながらわかりやすく絵を使って表現させていただきたい、こんなことでお示しさせていただきたいと思いますので、今日はこの骨格部分だけご確認を願って、個々の思いにつきましては、また精査してお示しさせていただきますのでよろしくお願いしたいと思います。

委員了承

(2)総合教育会議で協議・調整していく政策課題について

西入教育次長 資料2説明

それでは2番目の議題でございますが、この総合教育会議で協議する事項が教育大綱の策定と教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情を踏まえた教育、学術及び文化の振興を図るために重点的に講ずる施策ということの位置づけでありまして、その内容についてご提案をしたいと思っております。資料2ということでお示したものでございますが、これにつきましては教育委員会として今後腰を据えて取り組む中長期の政策課題ということで、挙げさせていただいた8課題でございます。

長年にわたる懸案、今後あるべき姿はなにか、これらは方針を早急に決定しなければならない課題ですとか、差し迫った将来への予測を踏まえた中で市長部局と方向性を共有すべき課題ということで挙げたものでございます。

特に議会の答弁、質問にかかります答弁におきましても、これらについて質問がございまして、教育委員会の考え方を申し上げたところでございます。そういった中で今回8項目あるうちの上から4つをこの総合教育会議の議題としてどうかという提案でございます。一通りこの8項目についての教育委員会としての考え方を説明したいと思っております。

まず1番目の、学校給食の運営方式でございます。これにつきましては6月の議会でも質問がございました。平成23年度に審議会から答申を頂いたままになっております。方針が明確に示されておらないということを受けて、これから27年度中に方針を決定するというところで答弁をさしあげたものでございます。

論点の整理ということで一番、食育、これからの子どもたちをどうやって給食で育てるか、どうやって位置づけるか明確化が必要になる。またその中で施設の整備、調理方式、民間委託のあり方、考え方を整理してございます。

2番目が教育支援プランの進捗検証の明確化でございます。これも教育支援プランが出来まして5年が経過いたしました。重点目標4つ掲げの中で今現状がどういうふうになっているか、どのくらい成果が上がったかということを見える化し、分かりやすく公表していくことが必要になります。とりわけいろんな課題がございまして、子どもたちの学力向上に関してどのような成果が上がったか、どのような取り組みがあったかということも説明する必要があるということでございます。これにつきましても議会の質問にお応えする必要があるということでございます。また教育支援プラン5年が経ったということで、今後の教育支援プランのあり方、これについても教育会議の中でご議論いただきたいということではありますが、一つの課題と致しますと、下にもありますけど、信州型コミュニティースクールの推進との連携が必要になる、また新たに英語教育、小学校では教科化がありますけど、そういったものの充実をどう図っていくか。また幼保小中から高校、大学まで高等教育までの連携をどうするかということも新たな支援プランに盛り込むのか、先ほどの教育大綱にいろいろ盛り込まれる理念、これを具体的に具現化していくための方向性も明確にしていく必要があるというふうに思っております。

3番目は少子化による学校小規模化への対応ということでございます。現在総合計画に併せて人口ビジョンの策定を進めておりますけど、児童生徒が減少していくということは避けられない状況でございます。今後中長期の予測をいたします中で、出てくる課題、また、今後の教育の進め方、どうあるべきかということについて、予め会議の中でも論じていく必要

があるということでございます。

4つめは教育委員会組織のあり方ということでございます。先ほども寺島委員さんからもございましたが、教育委員会いろんな課題に対してこれから迅速に対応していく組織でなければならぬ、そういう中でどういった形がふさわしいかということ、これにつきましても3月議会以降でも検討していくとなったところでございます。この辺は市長部局と十分に調整を図りながら検討してまいらなければならないと考えております。以上4つが会議の中で重点的にご協議いただきたいということで提案いたしたいと思っております。

5番目以降でございますが教育委員会として更に精査をしながら、将来的にこの会議の中でも御意見を賜りたいと思っております。5番目はスポーツ施設整備基本方針の策定ということでございます。これも現段階では整備構想の審議をいただくためのたたき台をつくりまして関係者との協議、課題の共有を進めたいということでやっております。しかしながら下に書いてありますが、公共施設マネジメント方針、今後のあるべき公共施設のあり方、これら等踏まえて整備基本方針を策定するということが整合性が求められるということでございます。

これらとの進捗の整合が求められるということでございます。

6番目は信州型コミュニティスクールの推進ということでございます。現在、長野県教育委員会におきまして平成29年度までには、すべての小中学校で信州型コミュニティスクールを導入すると目標を掲げて、各自治体においても取り組まれております。これにつきましてはこれまで学校支援という形で住民の皆さんにボランティアという形で関わっていただいておりますけど、これを持続可能な仕組みにしていく為の方策を練らなければいかぬ、中でもこの目的の一つには非常に現場の先生方の負担が大きい中で、なんとかそれを地域の力で補う、サポートするということが大変大事になってくるということでございます。

そういった意味ではこれまでの学校の進め方、地域の考え方、教育委員会、生涯学習または学校教育課でやっております取り組みの共通理解、また目標を共有していくということが必要になると考えております。現在まだこれがどういった仕組みがあるべきかということの共通理解が無い状況でございますので、もうしばらくこれについて教育委員会内部で検討させていただいて、また方向性については御議論を改めていただければと思っております。

7番目がこれからの図書館のあり方ということで、今年、生涯学習基本構想の中で図書館のあり方についても一定の報告は来てるわけではありますが、28年以降、図書館基本構想新たに作っていく中で、事前にこれからの図書館はどうあるべきかということについては十分教育委員会の中でも議論、検討を進めていきたいと思っております。単なる本の貸館ではない社会教育活動との連携強化、また子どもの読書についての積極的な取り組みが必要になること、公共施設マネジメント方針も関わってまいりますが、老朽化しております上田図書館の整備についても検討していくということが必要かと思っております。

8つ目ですが、現在進めております真田氏、上田城の紹介コンベンツの制作ということでございます。これは11月末に完成予定となっておりますが、これらを更に市民の皆さん、または観光客の皆さんに十分活用していただくという、使いやすく活用していただくということで教育委員会で作りますけど、観光展開またシティープロモーション等との連携でどんどん宣伝をしていくと、PRしていくための手段に使っていききたいということでございます。

以上、中長期の課題、やらなければいけない事いろいろありますけど教育委員会としてはこの8つを掲げまして今後重点的にやっていくと、中でも上の4つについては総合教育会議の中で方向付けをいただければというふうに考えています。以上でございます。

金子政策企画部長

かなりの課題が今、示されましたが委員さんの皆さんいかでございませうか？

この総合教育会議、そんなに何回も開けるわけじゃございませんので、この4点、今年度中に整理できるかどうか事務局としては不安なものですから、来年度も継続してやっていくというような考えにもなると考えますがいかがでございませうか。

母袋市長

主な政策課題ということで8項目決めたということで発表してるわけですよ。市民もおそらくこういうのは初めてだと思いますね。個々のテーマはテーマごと、都度整った段階では発表していた感じになるけど、今ある上田の課題はこうだということを示して、開かれたというオープンな部分で進めるということが大事だと思います。

当然どこかで意見を聞くとか、パブコメ的なことも含めて、テーマによってはやらなければと思っています。そんな中で上の4つが総合教育会議での論点ということですから、私はこういう括りでいいのではないかなと。どれもこれも非常に教育マターの話は重いテーマですので、きちっと市長部局と教育委員会でのトータルの議論で処していくということが必要なことだと思いますので、私はこの4つでいいと思うんだけど、後はきりのない話で、すべてやりたい部分もあるんだけどいずれなっていくでしょう。5以下を含めていずれ議論に、当面はということなので。当面というか今年度というか、どういう区切り方をしたらいいのかな。

西入教育次長

議会答弁のなかでは、1番2番は今年度中にお示するという言い方をしてますし、4番目についても3月いっぱい総務部長答弁で教育委員会の組織のあり方について検討することも答弁しておりますのでこれについてはこの中で。

母袋市長

3番4番というのは今年度に限らずという部分もあるな。イメージ的には、そういうことでいいと思います。

山崎教育委員

市長からもお話ありましたように、こうやって政策課題としてきちんとしたものになったというのも私も初めて見させていただいたのでとてもわかりやすいです。今までそれぞれ課題事項については定例会で議題としてあがってきて、こういう事があるんだということは委員でも承知はしておりました。ですが定例会の中で、こういうことですよという議論というからお話がありますが、次回の定例会には前回解決できなかった課題を持ち越して議論するかというとなかなかそういう事が出来ないでいましたので、それぞれの課題事項が一回の定例会のみで終わってしまったというのが現状でありました。

それが今回こうやってきちんとした形になって私たち委員が、こういう政策課題があってそれについてどう考えていけばいいのか、どう取り組んでいけばいいのかというのがとてもはっきり分かりました。今まで一回一回で終わってしまった定例会が、イメージだと点、点であったのが線になっていくと、みんなが共通して課題に取り組めるかなというふうに思ったのが正直なところですよ。

城下教育委員

この課題 8 つ、どれも重たいものです。今まで、なぜこの 8 つが明確化されなく、当然教育委員のレベルでは知ってもしましたが、それを実際知ってる上で年間 10 校、15 校近く学校訪問をしていますと具体的にそういった問題点を現場で目の当たりにしてきたわけですね。

私 6 年間目の委員をやっています、なぜこれが少しでも遅々としながらも前に進まなかったのか、ずっと課題を頂いたときから、私一人の責任じゃないんですけど、これを改善の方向に向かっていくために私は 6 年間何をしていたんだろうという自責の念というか、課題を見ながら感じたところです。ですけど過去を振り返ってもしようがないですし、原因というものはやはり教育委員の意思決定に迅速性に欠けるとか継続性に欠けるとか、予算的な権限が無いということとか、いろいろなことが絡み合って、課題が前に出てきたときには真剣にどの委員さんも考えましたし、事務局の方もどうしたらいいのか真剣に考えてはきたんですけど、やはり、その時その時で継続性がなかったり、具体性が無かった。制度をつくっておしまいではないのだから具体的に動いてみたのだけれど、ここダメだった、あそこ良かった、ここは改善してあそこは作り直してという、そういう具体的な動きがあってこそ制度やシステムが、具体的に結果となって表れて子どもたちや市民の皆さんが良かったと思えるものに繋がっていくんだと思いますので、これを機に、ここに 8 つあって、上の 4 つは喫緊の課題、そこを肝に銘じて、今まで以上に迅速性を持って継続性を持って、具体的に訴えていかなければいけないんだなという思いをしっかりと思ったところです。

寺島教育委員

これは今回の制度改革、総合教育会議というのが生きた効果の一つだと私は思っているんですけど、これ以外にも結構、たくさん課題はあるんですけど、ここに書いてある課題については事務局の担当の方は常に研究をしていくことだと思うんですけど、全体像として我々教育委員と共有されていなかったことが実態だったと思うんです。今まで何となく隠れていたものがオープンになって、我々も一緒にこれを共有して、教育の大綱でもようやく議論を始めたということで、これはようやくそういうことでは今までのような形骸化ということから一歩踏み出していくのを感じているのが実感です。

北沢教育委員

私はこの 4 月からですけど、この間に課題を明確に出していただいて、例えば今後のビジョンとして短期あるいは中長期でどうやって取り組むかというのが明確になったなというふうに思います。中でも例えば予算のどの項目を選択してどう集中して予算的措置をしていくかということも、ある面で見通しがつく一つの資料ではないかなと思います。

小林教育長

今、委員の皆さんに言って頂いたんですけど山崎委員さんが言っていただいたように点としてはあったものが線として出すことによって明確になった面がかなりあると思います。そうすると明確になればなるほど期待の大きいことだと思います。市民にとっても、そういった意味で教育委員会も一層しっかりとこの問題を受け止めて考えてまいりたいと考えております。

金子政策企画部長

皆様から伺いました。それでは、ご提案いたしましたこの 4 点について、今後の総合教育

会議で取り上げて協議をいただくと。ものによっては、忙しいものもありますが、そういうことで進めさせていただくということで、ご理解いただいたということによろしいでしょうか。

委員了承

金子政策企画部長

それでは、次回3回目ということで、さきほど申し上げました教育大綱、これについてより具体的なものをお示ししご議論いただきたい、それと今回の政策課題のうち議題として提案できるものについて取り上げたいと思います。

本日は、慎重審議をいただきまして、誠にありがとうございました。これをもちまして、第2回総合教育会議を閉じさせていただきます。